介護福祉士 富山が育てる

モンゴル出身 県内3医療法人連携

学び、働く 一貫支援

学費支給や就職後押し

介護の人材難が問題となる中、富山県内で老人保健施設を運営する医療法人3団体が連携し、介護福祉士を志すモンゴル人留学生の支援に取り組んでいる。今年度は16人をサポートし、介護福祉士の場合、2年間の学費240万円のほか、住居費を支給し、アルバイト、就職の面倒をみる。富山では介護分野の求人倍率が5倍近くになっており、海外の人材を確保し、人手不足の解消につなげる。

介護の仕事に励むトゥルボルドさん＝富山市内の老人保健施設

五省会（富山市）と双星会（同）、紫蘭会（高岡市）の3医療法人は昨年4月、サンライズ・ネットワークを設立し、これまで民間会社が行っていたモンゴルからの留学生受け入れ事業を引き継いだ。

昨年9月に入管難民法が改正され、留学生が日本の養成校で学び、国家資格を取得すれば、国内で働けるようになった。

サンライズ・ネットワークスでは現在、介護や看護を学ぶ16人を支援する。富山、石川の専門学校に通い、介護で3人、看護で2人が国家試験を受ける予定となっている。

介護福祉士の場合、2年間で学費240万円と住居費を支給する。半分は貸与となるが、残り半分は団体が仲介した施設で5年間働けば免除となる。生活費を賄うため、介護施設でのアルバイトを紹介する。

介護施設で働くことで、経験を積み、日本の生活習慣や文化に触れられるメリットがある。卒業後の勤務先は原則アルバイトをしていた施設としている。事務局の井上仁さんは「働く施設について在学中から知ることができ、スムーズな就労につながる」と話す。

県内では介護分野の人材不足が恒常化している。富山労働局によると、介護分野の有効求人倍率は、2014年平均が2・92倍、15年平均が3・59倍、16年平均が4・11倍と年々高まり、昨年12月は4・97倍となった。

サンライズ・ネットワークスの支援を受けて、今春、富山福祉短大を卒業したトゥムル・トゥルボルドさん(36)は、4月から五省会が運営するみどり苑（富山市秋ケ島）で働いている。

モンゴルの大学で日本語を学び、旅行ガイドの仕事をしていたが、案内した日本人の中にいた医療関係者に感銘を受け、日本の医療や介護を学びたいと来日した。トゥルボルドさんは「富山でしっかり日本の介護を学びたい」と話した。

NHK元記者 無罪主張

3女性暴行 検察「DNA型一致」

山形地裁初公判

山形、山梨両県で当時20員裁判初公判で「全て間違っている。私はやっていない」と述べ、無罪を主張した。

材先で知り合った女性を暴行し、不在時に下着を盗むなどしていた元NHK職員を強姦容疑で逮捕した。

判所の別室から映像や音声でつなぐビデオリンク方式で、証人尋問に応じた。「目を閉じたら犯人が来るのではないか」と、事件後眠れなくなり心的外傷後ストレス障害（PTSD）に苦しんだことを訴えた。

起訴状によると、16年2月に山形市、14年10月と13年12月に山梨県内で女性宅に侵入し「動くな、おとなしくしていれば殺さない」などと脅して乱暴し、うち2件で女性にけがを負わせたとしている。

遺体は、岩倉知広容疑者(38)の祖母久子さん(89)と特定したと明らかにした。これで5人全員の身元が判明した。顔などに激しい暴行を受けたとみられる傷があり、久子さんとトラブルがあったとみて動機の解明を進める。

捜査関係者によると、知人の計5人を殺害したとみて裏付け捜査している。

県警によると、知広容疑者は、久子さんと正知さんを屋内で殺害し、数日後の6日午後、民家へ来た親族の孝子さん(69)とその姉の坂口訓子さん(72)、近所に住む後藤広幸さん(47)を次々に殺害したとみ共犯。県警

架空請求はがき 県内注意

今年、警察に相談417件 ／ 被害も発生

富山県内で今年、「架空請求のはがきが届いた」という相談が417件、県警や県内各署に寄せられていることが10日、分かった。3月5日には黒部市内、4月4日には射水市内でそれぞれ現金10万円をだまし取られる被害が発生しており、県警は注意を呼び掛けている。

はがきには「法務省管轄支局民間訴訟告知センター」など実在しない団体名が記載され、記されている電話番号にかけると、「訴訟の取り下げ費用が必要」などと100万～200万円を宅配便などで送るよう要求される。

県警によると、1月の相談は25件、2月は123件、3月は181件、4月は9日時点で88件。捜査2課は「訴訟を起こすなどの文書は特殊詐欺の手口。絶対に連絡をせず、相談してほしい」としている。

両親「生きているだけで申し訳ない」

元オウム井上死刑囚

かほく市高松の真宗大谷派浄専寺住職を務める平野喜之さん(54)は10日、京都市の京極寺で、地下鉄サリン事件などオウム真理教による10事件に関与し、殺人罪などで死刑が確定した元教団幹部井上嘉浩死刑囚(48)の両親と会い、5日に死刑囚と面会した時の様子を伝えた。平野さんによると、両親は「オウム事件で亡くなった方のご遺族の気持ちを思うと、息子や私たちが生きているだけで申し訳ない」と心境を語った。

平野さんは両親の依頼で2006年から井上死刑囚と交流を続ける。5日の大阪拘置所での面会や平野さんに届いた井上死刑囚からの手紙の内容を伝えた。

高校まで両親と暮らした井上死刑囚は16歳で教団の前身「オウム神仙の会」に入った。母は「オウムをやめさせられず責任を感じる。愚かな母親だった」と振り返った。父は1995年に逮捕された井上死刑囚に「本当に裁くのは裁判官ではなく、君自身の良心だ」と手紙を書いたとし「今もその思いは変わらない」と語った。

人生は旅
1泊2食付（大人お1人様） 7,500円～ 税別
イプ！満足できる旅をリーズナブルに！
場快リゾートの ＼大好評／
グ」実施中！
味に太鼓判！
勲章料理人 大田忠道プロデュース